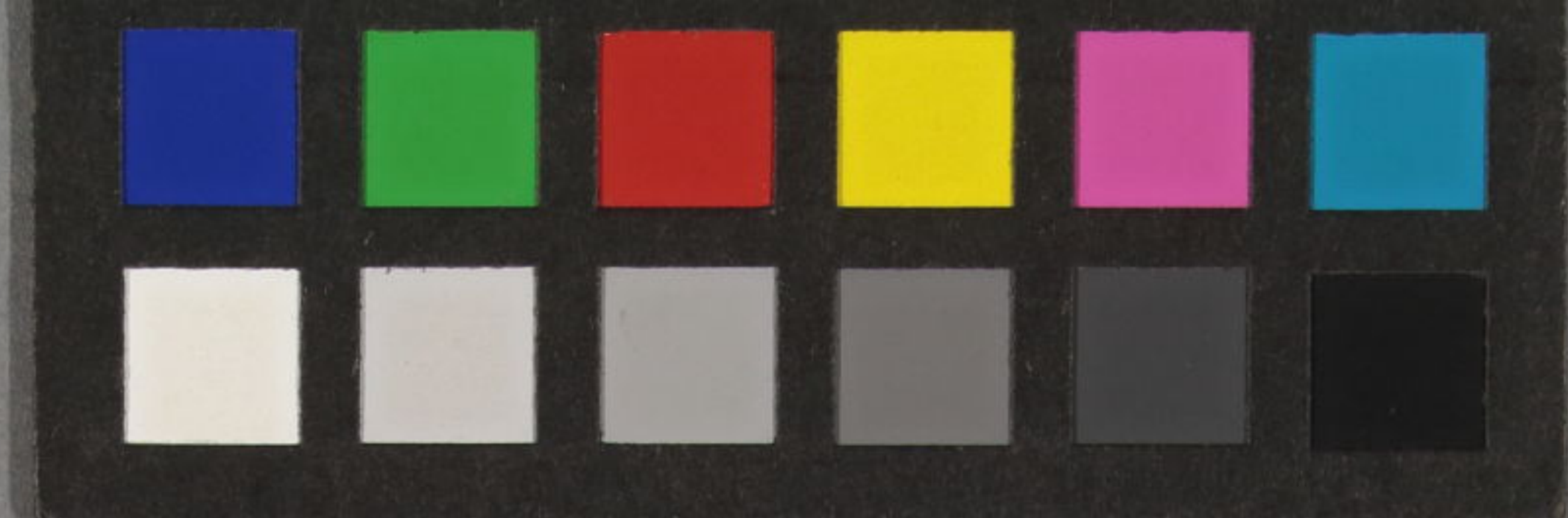






非蔵鑑圖

谷合印

仰て天文と觀の俯

て地理と察のイヤ三

六神通は具足するは

高尚な陳奮翰今此

風雨天眼通と云せる

と往昔捨短子なる者

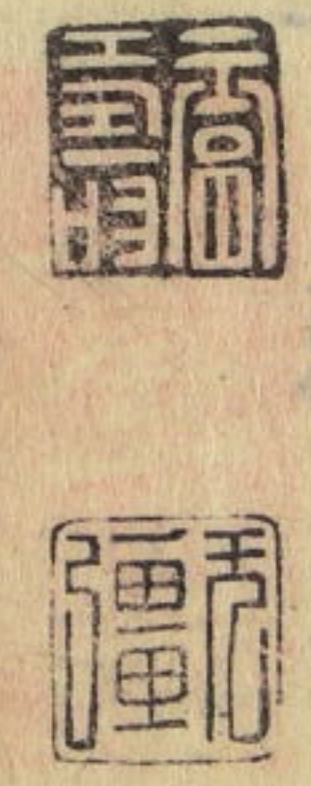
著示しての陳奮翰



和解法君不倭ふとの
 老に食付て徐々く高
 尚れ所へ誘引んと計
 策其計策茲觀察不
 が則不倭が天眼通也

安永丙申年春三月

浪花黄白山人書



言後し書

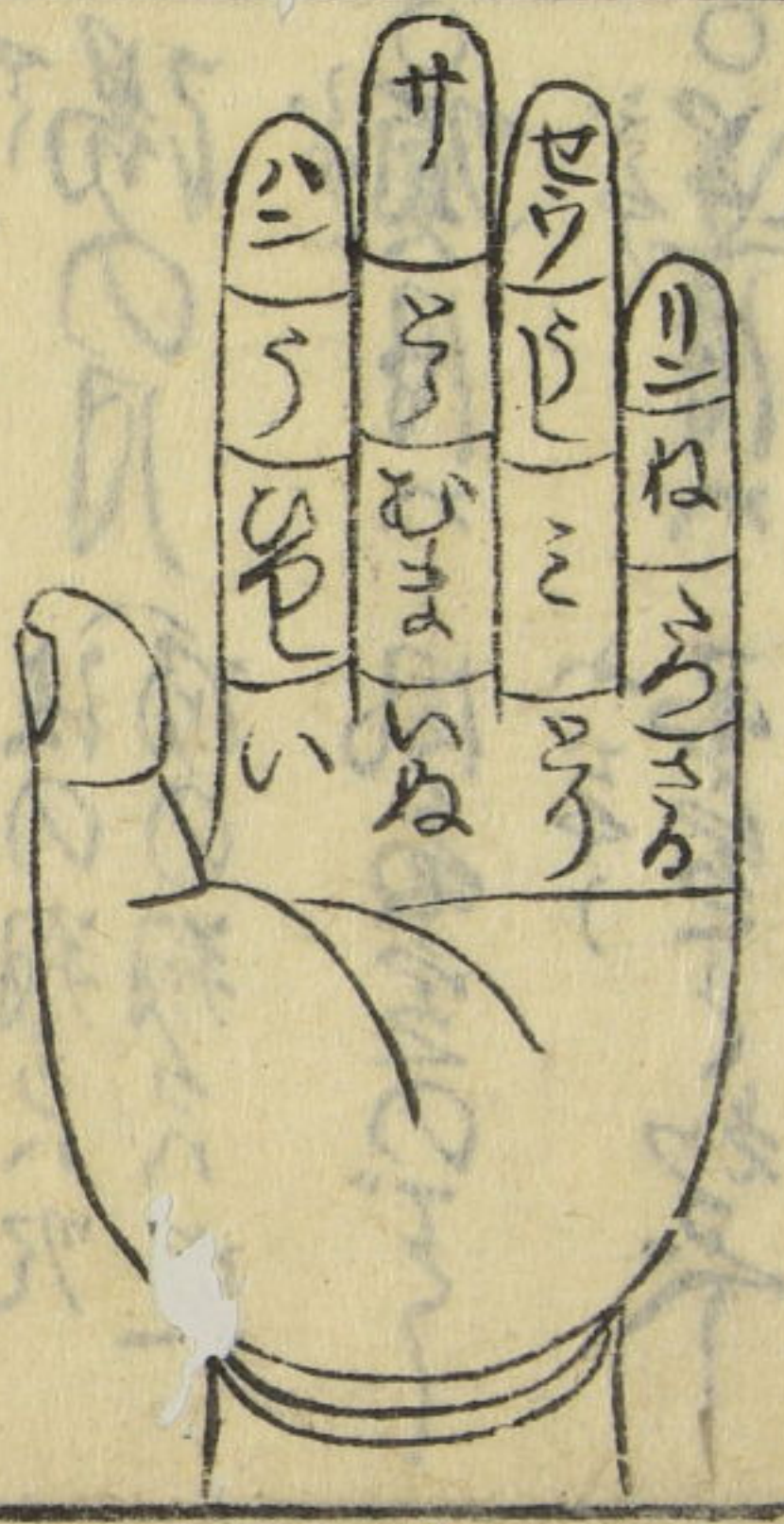
白く太陽けき吹く風
 天に映けき吹く風
 二月六日と陽の月
 西風とさうんたり

七月が去るもこの月の
知れぬ風ある境の
方々どよめくおのれを
病もく境のうらむ
なり境の梅の影は
或は申酉亥卯辰
あはれに境の湯を
暖むる事とては

又年月日付たつれ
んくを
陰の月 陽の月
陽の月 陰の月
順の月 逆の月
運の月 石の月
成る月 石の月
卯の月 酉の月

日の出ふ赤きまゐる

日北堂中指南



霖照早年と見え
かゝりて。づい。そんぞろ

ふいふの時うねる
しの上うへてうねる

の刻やもたふくく印の

時やもたふくく印の

スリへ辰と底あうあて

かろく

虹電傳

虹とや波の風うう

雪うもわけてあま

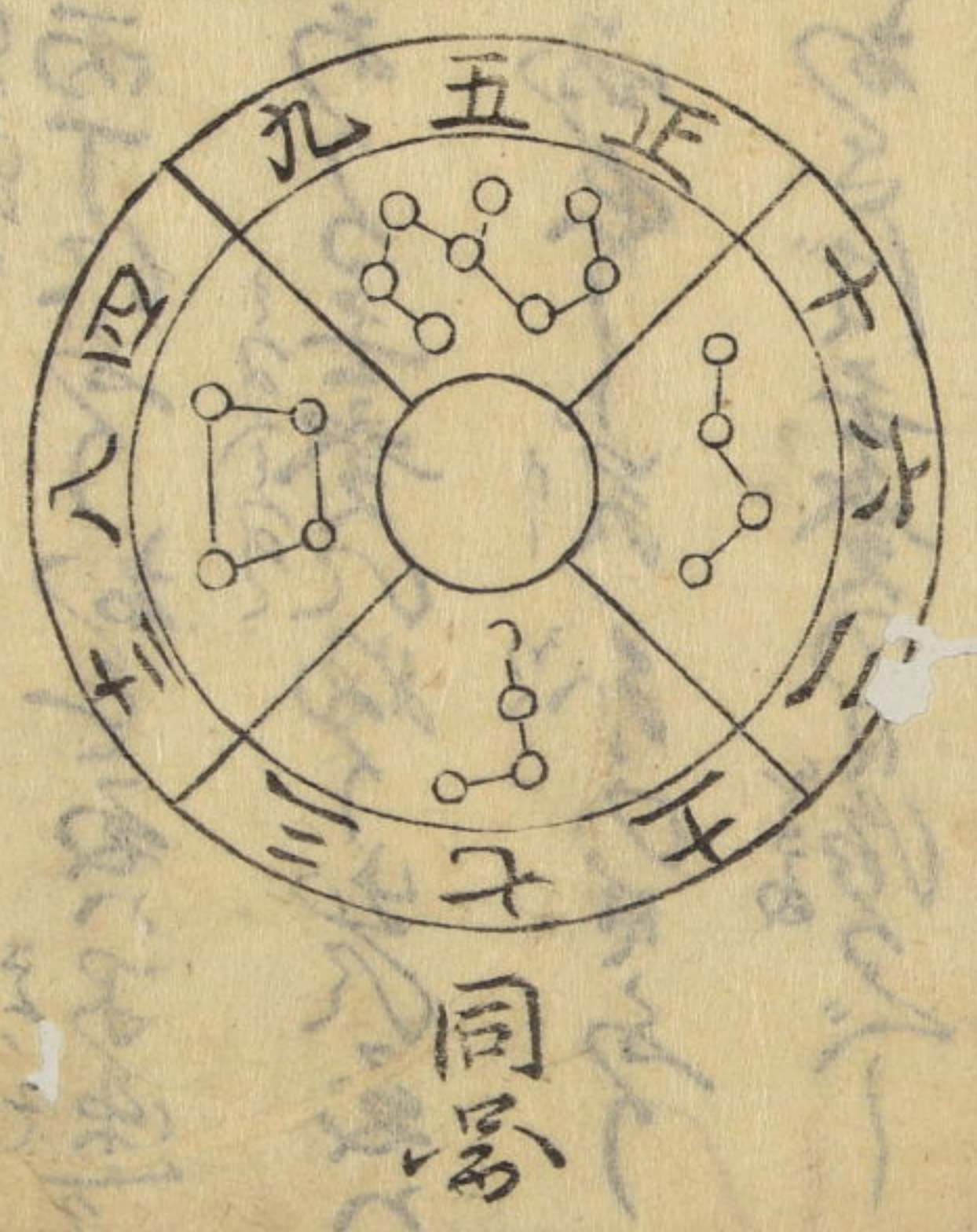
風や伝へん中流うそ

俄^に大風^{ふう}大^{たい}雨^うなり
あ^あわ^わべ^べの^のり^りな^なり
東^{ひがし}に^にあ^ある^る日^ひは^はあ^ある^る所^{ところ}
日^ひは^はあ^ある^る東^{ひがし}に^にあ^ある^る大^{たい}風^{ふう}
電^{でん}は^はあ^ある^る東^{ひがし}に^にあ^ある^る日^ひは^はあ^ある^る
あ^あは^はあ^ある^るあ^ある^るあ^ある^る
あ^あは^はあ^ある^るあ^ある^るあ^ある^る
あ^あは^はあ^ある^るあ^ある^るあ^ある^る

三好清江秘傳

月^{つき}日^ひ時^{とき}と^と家^{いえ}々^々に^にあ^ある^る
夕^{ゆふ}々^々に^にあ^ある^る日^ひは^はあ^ある^る
あ^あは^はあ^ある^るあ^ある^るあ^ある^る
柳^{やなぎ}外^{そと}登^{のぼ}る^る
房^ふ々^々に^にあ^ある^る少^{すこ}雨^うなり
晝^{ひる}々^々に^にあ^ある^る大^{たい}雨^うなり
軒^{のき}々^々に^にあ^ある^る風^{ふう}なり

三月廿六日 星宿
 として次方にうきも日
 小満の星と子とうき
 時とくぞく柳花をま
 日如房星をれいす
 たとくまうしう中の刻
 ぬりあさげちぬなり
 おとくちう



周界

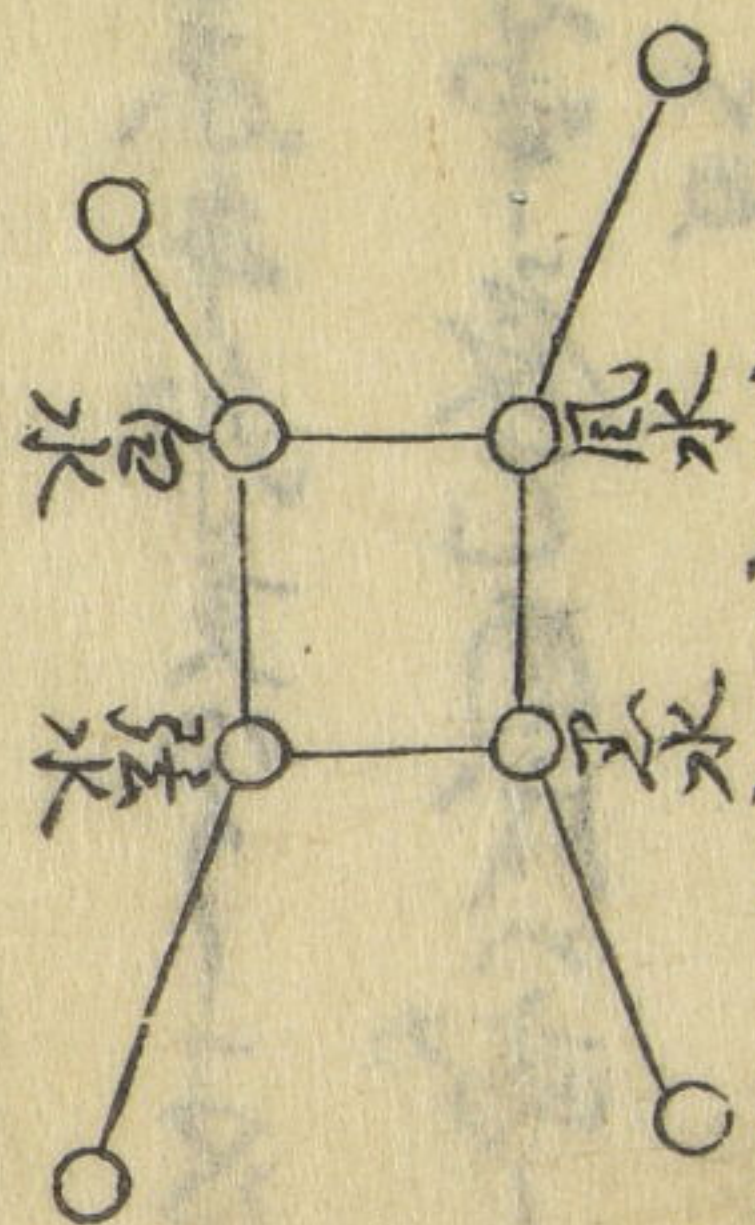
一平れ期ぐいふあ
 るまぐくあふ年とあ
 表中又巳の卯あふ

壬午申の日和室あぞ
又巳卯の日春風あけど
と冬人好く秋け日風吹
る日利なり
丙丁にありおと夏ハお速
あつる壬寅にゆふ出たぬハ
ぬき。あけの日あり
あさば壬寅の日清くどー

金あつた日あけど
戌子や辰申成へんとあれ
その日はあさあつ
耳鳴る音あけど
世末午卯まへうー子亥
子申辰己酉成へあ
大の長鳴あつた
子世辰卯己戌まへ子午や

未申酉のさなりき

井列宿の宿



年月日海流の順に

くらぐら

あつた夜の年六月大

世の刻なりおさげえん

然しつるそまふて

くまの辰の風あふる

次の星あふる次才

くまの六月の白あふ

入強あふるたてら

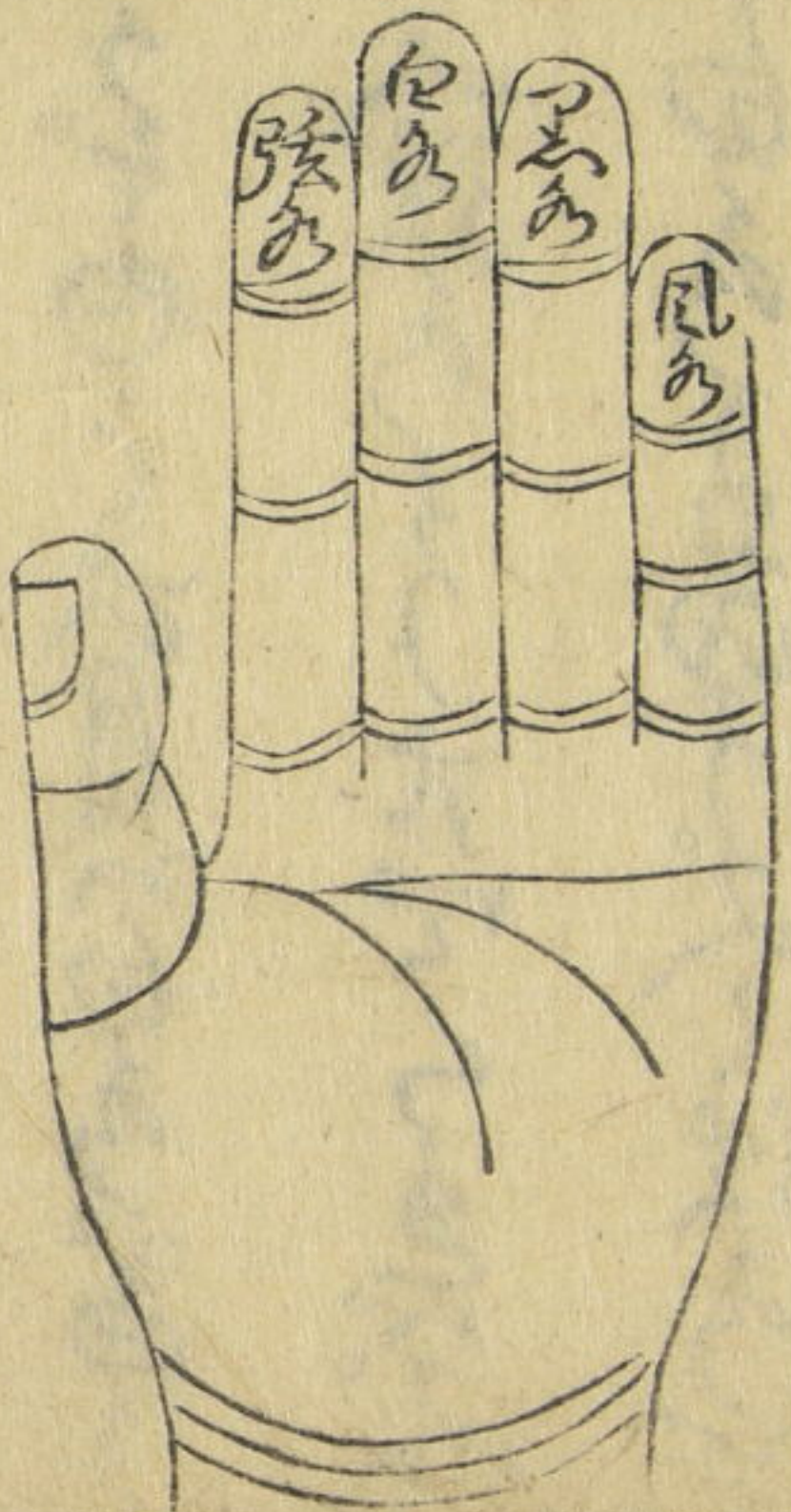
白あふるふく強あ

子うてふれど一ハ

風あふるふく大

おて知るべし

同井列宿掌中



元四第目錄

正月
糸のき
松乃下

雪をふり釣夕
わくをわけ雪

雪くわのふるゝ雪を釣夕
おどやろ十日吹雪をふり
釣わけー申酉にありて
ふ雪うつゆりいこふ雪
と知るべし終るゝ雪あり
そ雪あがりて雪月あり
夕わけゝ雪あせつゝ
ふ雪をわくゝなる雪

ついでに北風も来りて
の月ハ南の空より来り付
金一羽五つまでハ南風
馬車も立止りて廣く氷
大風の勢なり

二月 己午の夕方風吹
雪流 仰ぐ所 風を

吹雪又去ぬるが如く

雪吹ぬるやうなりて
風もどくやぬるを
軍目色あつたるよみ風
吹ぬけ日数もくハ大形
不吹ものなり
知る一々天とよき
此頃とてあつたなり
風やどくやぬるを

是より九月和と知る

三月 震より卯辰

けき の内を凡るに

大小あり

苗代震より卯辰

吹一あり吹少あり

四月 申旬より子卯

辰己より風吹

朝や夕別をいふ

と云ふ。夜より

あまた入るなり

あまた入るなり

西より大なる

日北より、夜より

あつたふり

光のほかにあつた

雲の月をかくるをせし

あか時めけりふさふさ照る

五月 節又をきく

梅をみ てもきくあつ

煙のやーあかき

又きけるなり

きく つもきく

きくきく南風吹く

時をきくきくきく

白く ぬき南風吹く

ぬきぬきのぬききく

晴きおきききき

きのききききき

きくきく

六月 ちきく

きくきくきくきく

とくふくはるる振るる

隅のき すく 辰己分乾いぢいへき

今くは秋の大風の想おもふ

肝東風 かんとうふう 今きき

同中か七月迄まての月

大風をれは秋洪あのか

七月 しちがつ くるきききき

吹きき ふきき けきききき

風をよほふく大風と

あつ陰陽陽り替る時

太事なりあつる秋

東南の風はぬと吹の

七つ月よおの方よりあき

ききき大風の想おもふ

ききききききききき

吹ひききききききき

ききききききききき

八月

暑入角のそ

うく小風つくる

ぬき大風の吹く

二八月の不定なり

前の目もと見え

好勢なり

八金

小風吹く

此の風より

九月

むき

風の

初まり

演西

西風吹く

てふ

果

吹く

う

あ

方

十月

壬午

あつちうすあつちう

あつちうすあつちう

あつちう

十一月

吹雪風位

十二月

大小雪

正月

いんげん

午未の方

あつちうすあつちう

あつちうすあつちう

あつちう

大磔

あつちうすあつちう

あつちうすあつちう

あつちうすあつちう

あつちうすあつちう

長しとゆいさふハ

風はう

万通土一里の

いありてまう

殺軍（みえ）（みえ）

日（みえ）日（みえ）日（みえ）

是月ふらつての

とくちとて

しつた地とて

あつたばあつた

なりともあつた

あつたつた

あつたつた

あつたつた

あつたつた

あつたつた

あつたつた

ものなり

御劔灵

無魔海づのこめけ

こゝぬ目ふ方角とく

守りあふふふ知て

けふふ向ふもの務員に

てなすけそと人災難

あふふ世よ是とふ少半

抄神の律新抄みく云



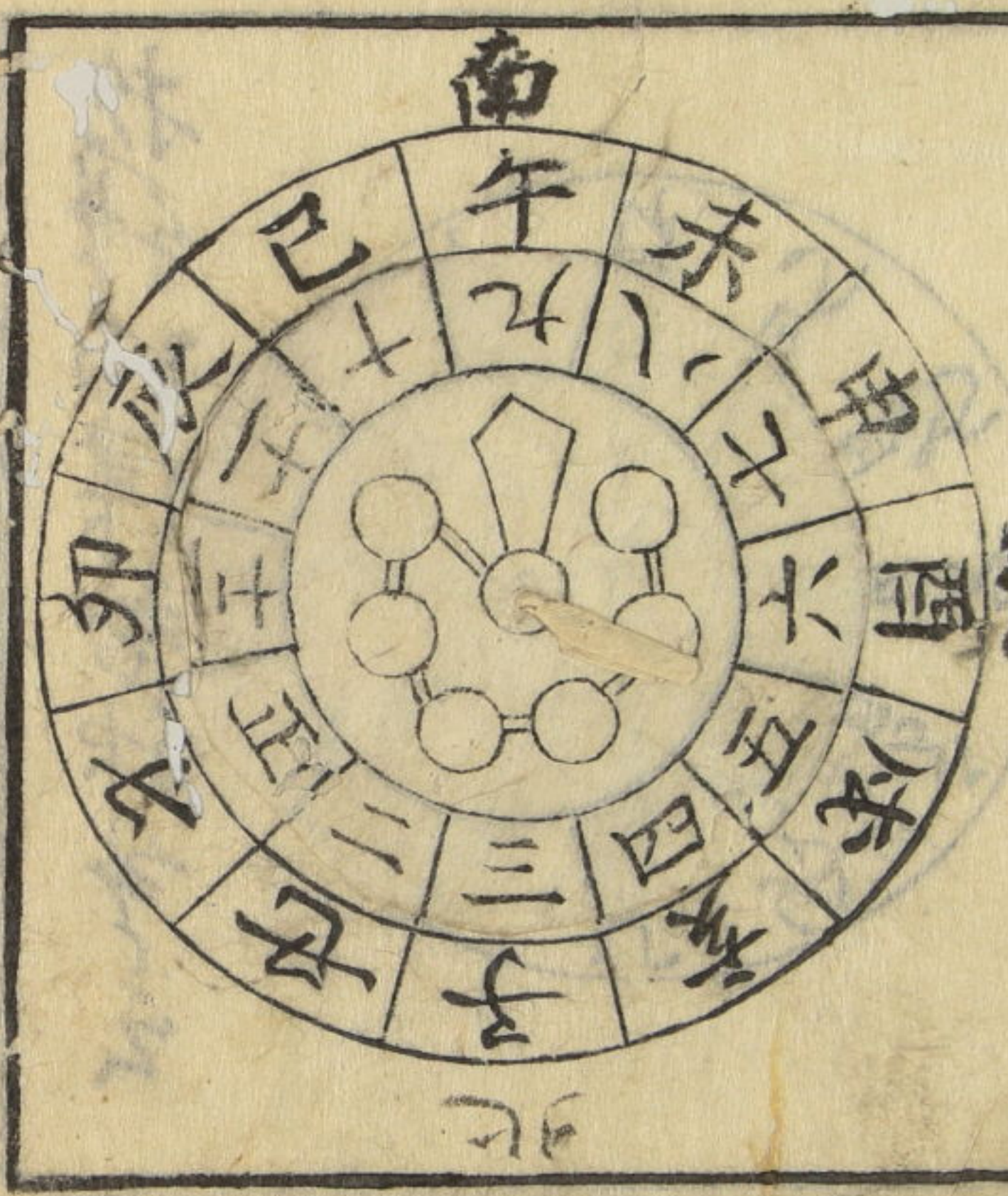
破軍星

あふふ向ふ方角とく

これあり今とくふ方角

てなすけそと人災難

りひす也別今也
とんせん
 所の破軍望ハ兵書虎
 の巻と傳文——
 わるす



辟ハ正月寅の刻とる
 先云の字と才に當て中の
 星成るる刻年来と仰る
 正月と其時と南の方で
 知るへとる

天宮神

此方に向ふ時とある
 としとるすて後

あす時へ大さふさ

けいひー

縁乃る年いの方

じこり年さの方

そまいね年この方

ういひ年さの方

○人の姓よりて

貴賞とる日の方

ほい

いね月	うさ月	いね月	そま月	うさ月	
○	●	●	●	○	木
●	●	●	○	○	火
●	●	○	○	●	土
●	○	○	●	●	金
○	○	●	●	●	水

縁へ木姓の人未の日或る

未の時へ未の方何れも

中をうり又火性の人
未の時方何處も中を
同じく火性子の時方ハ
大熱なり餘をわ
かりぐり

大政心齋橋南二丁目

書林 松邦九兵衛

